

第 6 章 調査、予測及び評価の手法

第6章 調査、予測及び評価の手法

6-1 調査及び予測

6-1-1 大気質

[調査]

既存資料 調査	大気質	調査目的	<ul style="list-style-type: none"> ・事業予定地周辺の大気汚染物質濃度の現況把握 ・予測・評価のためのバックグラウンド濃度の把握
		調査事項	・二酸化窒素及び浮遊粒子状物質濃度
		調査方法	・常監局データの整理
	気象	調査目的	<ul style="list-style-type: none"> ・事業予定地周辺の気象の現況把握 ・大気汚染物質の拡散計算に用いる気象条件の把握
		調査事項	・風向、風速、日射量及び雲量
		調査方法	・常監局データ及び名古屋地方気象台データの整理
現地調査	自動車 交通量	調査目的	・事業予定地周辺の自動車交通量の現況把握
		調査事項	・自動車交通量(時刻別、車種別、方向別)及び走行速度
		調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車交通量は3車種分類(小型車、中型車、大型車)で数取器を用いる方法 ・走行速度はストップウォッチで区間通過時間を計測する方法
		調査場所	・工事関係車両の主な走行ルートとして想定される事業予定地周辺道路の4地点及び踏切が除却される幹線道路の3地点(図 6-1-1 参照)
		調査時期	・1年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の各1日(24時間)

[予 測]

工事中	建設機械の稼働	予測事項	・建設機械の稼働による大気汚染物質濃度
		予測項目	・二酸化窒素濃度(年平均値及び日平均値の年間98%値) ・浮遊粒子状物質濃度(年平均値及び日平均値の2%除外値)
		予測条件	・気象条件 ・建設機械の種類別大気汚染物質排出量 ・建設機械の種類別稼働台数及び配置 ・バックグラウンド濃度
		予測方法	・大気拡散モデルに基づく予測
		予測場所	・事業予定地周辺
		予測時期	・工区毎に建設機械の稼働による大気汚染物質の影響が最大となる時期
	工事関係車両の走行	予測事項	・工事関係車両の走行による大気汚染物質濃度
		予測項目	・二酸化窒素濃度(年平均値及び日平均値の年間98%値) ・浮遊粒子状物質濃度(年平均値及び日平均値の2%除外値)
		予測条件	・気象条件 ・道路条件(道路構造、幅員等) ・バックグラウンド濃度 ・排出源条件(工事関係車両台数、走行速度、排出係数等)
		予測方法	・大気拡散モデルに基づく予測
		予測場所	・工事関係車両の主な走行ルートとして想定される事業予定地周辺道路の4地点(図6-1-1参照)
		予測時期	・工事関係車両による大気汚染物質の影響が最大となる時期
供用時	鉄道施設の供用	予測事項	・道路交通円滑化による大気汚染物質濃度の変化
		予測項目	・二酸化窒素濃度(年平均値及び日平均値の年間98%値) ・浮遊粒子状物質濃度(年平均値及び日平均値の2%除外値)
		予測条件	・気象条件 ・道路条件(道路構造、幅員等) ・バックグラウンド濃度 ・排出源条件(踏切除却後の自動車交通量及び走行速度、排出係数等)
		予測方法	・大気拡散モデルに基づく予測
		予測場所	・踏切の除却により道路交通の円滑化が図られる幹線道路の3地点(図6-1-1参照)
		予測時期	・供用時

6-1-2 騒音

[調査]

既存資料 調査	調査目的	・事業予定地周辺の騒音の概況把握
	調査事項	・環境騒音、鉄道騒音及び道路交通騒音
	調査方法	・「名古屋市の騒音 環境騒音編(平成 26 年度)」(名古屋市、平成 27 年)、「名古屋市の騒音 在来鉄道騒音・振動編(平成 28 年度)」(名古屋市、平成 29 年)及び「名古屋の騒音 自動車騒音・振動編(平成 29・30 年度)」(名古屋市ウェブサイト)の整理
現地調査	調査目的	・事業予定地周辺の騒音の現況把握
	調査事項	<ul style="list-style-type: none"> ・環境騒音(等価騒音レベル(L_{Aeq})) ・鉄道騒音(等価騒音レベル(L_{Aeq})) ・鉄道の運行状況(列車本数、編成、走行速度等) ・道路交通騒音(等価騒音レベル(L_{Aeq})) ・自動車交通量(時刻別、車種別、方向別)及び走行速度
	調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・環境騒音、道路交通騒音は「環境騒音の表示・測定方法(JIS Z 8731)」に定める方法 ・鉄道騒音は「在来鉄道の新設又は大規模改良に際しての騒音対策の指針について」(環境庁、平成 7 年)に基づく方法 ・鉄道の運行状況は目視観測による方法 ・自動車交通量は 3 車種分類(小型車、中型車、大型車)で数取器を用いる方法 ・走行速度はストップウォッチで区間通過時間を計測する方法
	調査場所	<ul style="list-style-type: none"> ・環境騒音は事業予定地周辺の 5 地点(図 6-1-2 参照) ・鉄道騒音は事業予定地周辺において水平方向の調査を 5 地点、鉛直方向の調査を 2 地点で行う。(図 6-1-2 参照) [水平方向の調査] 各地点毎に水平方向へ 5 測点(鉄道境界、民地境界、12.5m、25m、50m)を設ける。 [鉛直方向の調査] 各地点毎に鉛直方向へ 3 測点(沿線の建物状況を考慮)を設ける。 ・鉄道の運行状況は鉄道騒音と同じ 7 地点(図 6-1-2 参照) ・道路交通騒音は工事関係車両の主な走行ルートとして想定される事業予定地周辺道路の 4 地点(図 6-1-1 参照) ・自動車交通量及び走行速度は、工事関係車両の主な走行ルートとして想定される事業予定地周辺道路の 4 地点及び踏切が除却される幹線道路の 3 地点(図 6-1-1 参照)
	調査時期	<ul style="list-style-type: none"> ・環境騒音、鉄道騒音及び鉄道の運行状況は平日の 1 日(列車が運行する時間帯) ・道路交通騒音は 1 年を通して平均的な交通量と考えられる平日の 1 日(6 時~22 時) ・自動車交通量及び走行速度は 1 年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の各 1 日(24 時間)

[予 測]

工事中	建設機械の稼働	予測事項	・建設機械の稼働による騒音レベル
		予測項目	・建設作業騒音(時間率騒音レベル(L _{A5}))
		予測条件	・建設機械の種類別周波数別パワーレベル ・建設機械の種類別稼働台数及び配置 ・騒音対策の方法
		予測方法	・「日本音響学会 建設工事騒音予測“ASJ CN-Model 2007”」に基づく予測
		予測場所	・事業予定地周辺
		予測時期	・工区毎に建設機械の稼働による騒音の影響が最大となる時期
	工事関係車両の走行	予測事項	・工事関係車両の走行による騒音レベル
		予測項目	・道路交通騒音(等価騒音レベル(L _{Aeq}))
		予測条件	・道路条件(道路構造、舗装種別等) ・音源条件(工事関係車両台数、走行速度等)
		予測方法	・「日本音響学会 道路騒音予測“ASJ RTN-Model 2018”」に基づく予測
		予測場所	・工事関係車両の主な走行ルートとして想定される事業予定地周辺道路の4地点(図 6-1-1 参照)
		予測時期	・工事関係車両による騒音の影響が最大となる時期
	列車の仮線走行	予測事項	・列車の仮線走行による騒音レベル
		予測項目	・鉄道騒音(等価騒音レベル(L _{Aeq}))
		予測条件	・現地調査結果 ・軌道構造(平地、盛土等) ・音源条件(列車本数、走行速度等)
		予測方法	・回帰モデルに基づく予測
		予測場所	・事業予定地周辺の5地点(図 6-1-2 参照)
		予測時期	・工事中の列車の仮線走行時
供用時	列車の走行	予測事項	・列車の走行による騒音レベル
		予測項目	・鉄道騒音(等価騒音レベル(L _{Aeq}))
		予測条件	・軌道構造(盛土、高架等) ・音源条件(列車本数、走行速度等)
		予測方法	・指向性有限長線音源モデルに基づく予測
		予測場所	・事業予定地周辺の7地点(図 6-1-2 参照)
		予測時期	・供用時
	鉄道施設の供用	予測事項	・道路交通円滑化による騒音レベルの変化
		予測項目	・道路交通騒音(等価騒音レベル(L _{Aeq}))
		予測条件	・道路条件(道路構造、舗装種別等) ・音源条件(踏切除却後の自動車交通量及び走行速度等)
		予測方法	・「日本音響学会 道路騒音予測“ASJ RTN-Model 2018”」に基づく予測
		予測場所	・踏切の除却により道路交通の円滑化が図られる幹線道路の3地点(図 6-1-1 参照)
		予測時期	・供用時

6-1-3 振動

[調査]

既存資料調査	調査目的	・事業予定地周辺の振動の概況把握
	調査事項	・鉄道振動及び道路交通振動
	調査方法	・「名古屋市の騒音 在来鉄道騒音・振動編(平成 28 年度)」(名古屋市、平成 29 年)及び「名古屋の騒音 自動車騒音・振動編(平成 29・30 年度)」(名古屋市ウェブサイト)の整理
現地調査	調査目的	・事業予定地周辺の振動の現況把握
	調査事項	<ul style="list-style-type: none"> ・環境振動(時間率振動レベル(L₁₀)) ・鉄道振動(ピーク振動レベル(L_p)) ・鉄道の運行状況(列車本数、編成、走行速度等) ・道路交通振動(時間率振動レベル(L₁₀)) ・地盤卓越振動数 ・自動車交通量(時刻別、車種別、方向別)及び走行速度
	調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・環境振動は「振動レベル測定方法(JIS Z 8735)」、道路交通振動は「振動規制法施行規則」(昭和 51 年総理府令第 58 号)に定める方法 ・鉄道振動は「環境保全上緊急を要する新幹線鉄道振動対策について(勧告)」(環境庁、昭和 51 年)に基づく方法 ・鉄道の運行状況は目視観測による方法 ・地盤卓越振動数は 1/3 オクターブバンド実時間分析器を用いた周波数分析による方法 ・自動車交通量は 3 車種分類(小型車、中型車、大型車)で数取器を用いる方法 ・走行速度はストップウォッチで区間通過時間を計測する方法
	調査場所	<ul style="list-style-type: none"> ・環境振動は事業予定地周辺の 5 地点(図 6-1-2 参照) ・鉄道振動は事業予定地周辺の 5 地点において、水平方向へ 5 測点(鉄道境界、民地境界、12.5m、25m、50m)を設ける。(図 6-1-2 参照) ・鉄道の運行状況は鉄道振動と同じ 5 地点(図 6-1-2 参照) ・道路交通振動及び地盤卓越振動数は工事関係車両の主な走行ルートとして想定される事業予定地周辺道路の 4 地点(図 6-1-1 参照) ・自動車交通量及び走行速度は、工事関係車両の主な走行ルートとして想定される事業予定地周辺道路の 4 地点及び踏切が除却される幹線道路の 3 地点(図 6-1-1 参照)
調査時期	<ul style="list-style-type: none"> ・環境振動、鉄道振動及び鉄道の運行状況は平日の 1 日(列車が運行する時間帯) ・道路交通振動は 1 年を通して平均的な交通量と考えられる平日の 1 日(6 時~22 時) ・地盤卓越振動数は道路交通振動とあわせて実施する。 ・自動車交通量及び走行速度は 1 年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の各 1 日(24 時間) 	

[予 測]

工事中	建設機械の稼働	予測事項	・建設機械の稼働による振動レベル
		予測項目	・建設作業振動(時間率振動レベル(L ₁₀))
		予測条件	・建設機械の種類別基準点振動レベル ・建設機械の種類別稼働台数及び配置 ・地盤条件
		予測方法	・振動伝搬理論式に基づく予測
		予測場所	・事業予定地周辺
		予測時期	・工区毎に建設機械の稼働による振動の影響が最大となる時期
	工事関係車両の走行	予測事項	・工事関係車両の走行による振動レベル
		予測項目	・道路交通振動(時間率振動レベル(L ₁₀))
		予測条件	・道路条件(道路構造、幅員等) ・地盤特性 ・振動発生源条件(工事関係車両台数、走行速度等)
		予測方法	・「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)」(国土交通省他)に基づく予測
		予測場所	・工事関係車両の主な走行ルートとして想定される事業予定地周辺道路の4地点(図6-1-1参照)
		予測時期	・工事関係車両による振動の影響が最大となる時期
	列車の仮線走行	予測事項	・列車の仮線走行による振動レベル
		予測項目	・鉄道振動(ピーク振動レベル(L _p))
		予測条件	・現地調査結果 ・軌道構造(平地、盛土等) ・振動発生源条件(列車本数、走行速度等)
		予測方法	・回帰モデルに基づく予測
		予測場所	・事業予定地周辺の5地点(図6-1-2参照)
		予測時期	・工事中の列車の仮線走行時
供用時	列車の走行	予測事項	・列車の走行による振動レベル
		予測項目	・鉄道振動(ピーク振動レベル(L _p))
		予測条件	・軌道構造(盛土、高架等) ・地盤特性 ・振動発生源条件(列車本数、走行速度等)
		予測方法	・類似事例からの数理解析モデルに基づく予測
		予測場所	・事業予定地周辺の5地点(図6-1-2参照)
		予測時期	・供用時
	鉄道施設の供用	予測事項	・道路交通円滑化による振動レベルの変化
		予測項目	・道路交通振動(時間率振動レベル(L ₁₀))
		予測条件	・道路条件(道路構造、幅員等) ・地盤特性 ・振動発生源条件(踏切除却後の自動車交通量及び走行速度等)
		予測方法	・「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)」(国土交通省他)に基づく予測
		予測場所	・踏切の除却により道路交通の円滑化が図られる幹線道路の3地点(図6-1-1参照)
		予測時期	・供用時

6-1-4 日照阻害

[予 測]

存在時	鉄道施設の存在	予測事項	・高架構造物等による日影の影響
		予測項目	・時刻別日影 ・等時間日影
		予測条件	・高架構造物等の位置、高さ及び形状
		予測方法	・太陽の方位角等から得られる理論式に基づく予測
		予測場所	・事業予定地周辺
		予測時期	・高架構造物等の存在時

6-1-5 電波障害

[調 査]

現地調査	調査目的	・事業予定地周辺のテレビ電波受信状況の現況把握
	調査事項	・事業予定地周辺のテレビ電波受信状況
	調査方法	・電界強度測定車による測定
	調査場所	・事業予定地周辺
	調査時期	・1回

[予 測]

存在時	鉄道施設の存在	予測事項	・高架構造物等によるテレビ電波障害
		予測項目	・テレビ電波障害の程度及び範囲(遮蔽障害及び反射障害)
		予測条件	・高架構造物等の位置、高さ及び形状 ・送受信条件(送信点からの距離、送受信アンテナの高さ)
		予測方法	・電波障害予測理論式に基づく予測
		予測場所	・事業予定地周辺
		予測時期	・高架構造物等の存在時

6-1-6 安全性

[調査]

既存資料 調査	調査目的	・事業予定地周辺の交通安全の概況把握
	調査事項	・交通量の状況 ・交通事故の発生状況
	調査方法	・「平成 27 年度 名古屋市一般交通量概況」(名古屋市、平成 28 年)及び「市内の交通事故発生状況(平成 30 年中)」(名古屋市ウェブサイト)等の整理
現地調査	調査目的	・事業予定地周辺の交通安全の現況把握
	調査事項	・通学路の指定状況 ・自動車、歩行者及び自転車交通量 ・交通安全施設及び交通規制の状況
	調査方法	・通学路の指定状況は聞き取りによる方法 ・自動車、歩行者及び自転車交通量は数取器を用いる方法 ・交通安全施設、交通規制の状況は、現地踏査による方法
	調査場所	・通学路の指定状況、交通安全施設及び交通規制の状況は事業予定地周辺 ・自動車、歩行者及び自転車交通量は事業予定地周辺道路の 5 交差点(図 6-1-1 参照)
	調査時期	・通学路の指定状況、交通安全施設及び交通規制の状況は 1 回 ・自動車、歩行者及び自転車交通量は、1 年を通して平均的な交通量と考えられる平日の 1 日(6 時～20 時)

[予測]

工事中	工事関係 車両の 走行	予測事項	・工事関係車両の走行による交通安全への影響
		予測項目	・事業予定地周辺の発生集中交通量 ・主要交差点における歩行者及び自転車との交錯
		予測条件	・工事関係車両の走行ルート及び発生集中交通量 ・現況交通量 ・安全施設の状況等
		予測方法	・工事計画に基づく予測
		予測場所	・事業予定地周辺道路の 5 交差点(図 6-1-1 参照)
		予測時期	・工事関係車両による交通安全への影響が最大となる時期
	列車の 仮線走行	予測事項	・列車の仮線走行による交通安全への影響
		予測項目	・仮線時の踏切横断における安全性
		予測条件	・仮線時の踏切配置計画
		予測方法	・工事計画及び類似事例等に基づく予測
		予測場所	・事業予定地
		予測時期	・工事中の列車の仮線走行時

6-1-7 廃棄物等

[予 測]

工事中	土地の 改変 及び 現在線の 撤去	予測事項	・工事中に発生する廃棄物等の種類及び発生量
		予測項目	・建設系廃棄物(建設廃材等)の種類及び発生量
		予測条件	・工事計画及び廃棄物等の処理方法 ・廃棄物等の発生原単位
		予測方法	・工事計画及び類似事例等から発生量及び再資源化量を推計
		予測場所	・事業予定地内
		予測時期	・工事期間中

6-1-8 植物

[調 査]

既存資料 調査	調査目的	・事業予定地周辺の植物の概況把握
	調査事項	・植物相(維管束植物)及び植生
	調査方法	・「レッドデータブックあいち 2009」(愛知県、平成 21 年)、「レッドデータブックなごや 2015 植物編」(名古屋市、平成 27 年)及び「第 6 回・7 回自然環境保全基礎調査(植生調査)」(環境省ウェブサイト)等の整理
現地調査	調査目的	・事業予定地周辺の植物の現況把握
	調査事項	・植物相(維管束植物)及び植生
	調査方法	・植物相は目視観察調査 ・植生は植物社会学的植生調査
	調査場所	・事業予定地周辺(調査地域内)
	調査時期	・植物相は春季、夏季、秋季に各 1 回 ・植生は夏季に 1 回

[予 測]

工事中 及び 存在時	土地の 改変 及び 鉄道施設 の存在	予測事項	・土地の改変及び鉄道施設の存在による植物への影響
		予測項目	・重要な種及び群落へ及ぼす影響
		予測条件	・工事計画 ・事業計画
		予測方法	・工事計画及び事業計画に基づく予測
		予測場所	・事業予定地周辺(調査地域内)
		予測時期	・工事中及び存在時

6-1-9 動物

[調査]

既存資料 調査	調査目的	・事業予定地周辺の動物の概況把握
	調査事項	・動物相(哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、クモ類及び陸産貝類)
	調査方法	・「レッドデータブックあいち 2009」(愛知県、平成 21 年)及び「レッドデータブックなごや 2015 動物編」(名古屋市、平成 27 年)等の整理
現地調査	調査目的	・事業予定地周辺の動物の現況把握
	調査事項	・動物相(哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、クモ類及び陸産貝類)
	調査方法	・哺乳類はフィールドサイン調査、トラップ調査及び目視観察調査 ・鳥類、爬虫類及び両生類は目視観察調査 ・昆虫類はベイトトラップ調査、ライトトラップ調査及び任意採取調査 ・クモ類及び陸産貝類は任意採取調査
	調査場所	・事業予定地周辺(調査地域内)
	調査時期	・哺乳類及び鳥類は四季毎に各 1 回 ・爬虫類、両生類、昆虫類、クモ類及び陸産貝類は春季、夏季、秋季に各 1 回

[予測]

工事中 及び 存在時	土地の 改変 及び 鉄道施設 の存在	予測事項	・土地の改変及び鉄道施設の存在による動物への影響
		予測項目	・重要な種及び注目すべき生息地へ及ぼす影響
		予測条件	・工事計画 ・事業計画
		予測方法	・工事計画及び事業計画に基づく予測
		予測場所	・事業予定地周辺(調査地域内)
		予測時期	・工事中及び存在時

6-1-10 生態系

[調査]

現地調査	調査目的	・事業予定地周辺の生態系の現況把握
	調査事項	・動植物その他の自然環境に係る概況 ・地域を特徴づける生態系に応じた注目種等の状況
	調査方法	・植物及び動物の調査方法に同じ
	調査場所	・事業予定地周辺(調査地域内)
	調査時期	・植物及び動物の調査時期に同じ

[予測]

工事中 及び 存在時	土地の 改変 及び 鉄道施設 の存在	予測事項	・土地の改変及び鉄道施設の存在による生態系への影響
		予測項目	・地域を特徴づける生態系に応じた注目種等へ及ぼす影響
		予測条件	・工事計画 ・事業計画
		予測方法	・工事計画及び事業計画に基づく予測
		予測場所	・事業予定地周辺(調査地域内)
		予測時期	・工事中及び存在時

6-1-11 緑地

[調査]

既存資料 調査	調査目的	・事業予定地周辺の緑地の概況把握
	調査事項	・緑地の状況(位置、種類、面積等)
	調査方法	・「名古屋市都市計画情報提供サービス」(名古屋市ウェブサイト)等の整理
現地調査	調査目的	・事業予定地周辺の緑地の現況把握
	調査事項	・緑地の状況(利用形態、植生等)
	調査方法	・現地踏査及びヒアリング調査
	調査場所	・事業予定地周辺(調査地域内)
	調査時期	・1回

[予測]

工事中 及び 存在時	土地の 改変 及び 鉄道施設 の存在	予測事項	・土地の改変及び鉄道施設の存在による緑地への影響
		予測項目	・緑地へ及ぼす影響
		予測条件	・工事計画 ・事業計画
		予測方法	・工事計画及び事業計画に基づく予測
		予測場所	・事業予定地周辺(調査地域内)
		予測時期	・工事中及び存在時

6-1-12 景観

[調査]

現地調査	調査目的	・事業予定地周辺の景観の現況把握
	調査事項	・地域景観の特性 ・主要な眺望点からの景観
	調査方法	・現地踏査及び主要な眺望点からの写真撮影
	調査場所	・写真撮影は事業予定地周辺の不特定多数の人が利用する主な場所の 5 地点 (図 6-1-2 参照)
	調査時期	・1 回

[予測]

存在時	鉄道施設 の存在	予測事項	・高架構造物等による景観への影響
		予測項目	・主要な眺望点からの景観
		予測条件	・地域景観の現況 ・高架構造物等の位置、高さ及び形状
		予測方法	・フォトモンタージュ等による予測
		予測場所	・現地調査地点の 5 地点 (図 6-1-2 参照)
		予測時期	・高架構造物等の存在時

6-1-13 人と自然との触れ合いの活動の場

[調査]

既存資料 調査	調査目的	・事業予定地周辺の人と自然との触れ合いの活動の場の概況把握
	調査事項	・人と自然との触れ合いの活動の場の状況 (位置、概要等)
	調査方法	・「名古屋市都市計画情報提供サービス」(名古屋市ウェブサイト) 及び「名古屋市みどりの年報 2019」(名古屋市、令和元年) の整理
現地調査	調査目的	・事業予定地周辺の人と自然との触れ合いの活動の場の現況把握
	調査事項	・人と自然との触れ合いの活動の場の状況 (利用形態、植生等)
	調査方法	・現地踏査及びヒアリング調査
	調査場所	・事業予定地周辺 (調査地域内)
	調査時期	・1 回

[予測]

工事中 及び 存在時	土地の 改変 及び 鉄道施設 の存在	予測事項	・土地の改変及び鉄道施設の存在による人と自然との触れ合いの活動の場への影響
		予測項目	・人と自然との触れ合いの活動の場へ及ぼす影響
		予測条件	・工事計画 ・事業計画
		予測方法	・工事計画及び事業計画に基づく予測
		予測場所	・事業予定地周辺 (調査地域内)
		予測時期	・工事中及び存在時

6-1-14 文化財

[調査]

既存資料 調査	調査目的	・事業予定地周辺の文化財の現況把握
	調査事項	・有形文化財の状況 ・周知の埋蔵文化財包蔵地の状況(位置、概要等)
	調査方法	・「指定文化財等目録一覧」(名古屋市ウェブサイト)及び「国指定文化財等データベース」(文化庁ウェブサイト)の整理

[予測]

工事中	土地の 改変	予測事項	・土地の改変による文化財への影響
		予測項目	・有形文化財及び埋蔵文化財へ及ぼす影響
		予測条件	・工事計画
		予測方法	・工事計画に基づく予測
		予測場所	・事業予定地及びその周辺
		予測時期	・工事中

6-1-15 温室効果ガス等

[予測]

工事中	建設機械 の稼働 及び 工事関係 車両の 走行	予測事項	・工事に伴い発生する温室効果ガス発生量
		予測項目	・温室効果ガス発生量(二酸化炭素換算)
		予測条件	①建設機械の稼働 ・建設機械の種類別稼働台数及び燃料使用量 ・燃料原単位 ②建設資材の使用 ・建設資材の種類別使用量及び排出原単位 ③建設資材の運搬 ・工事関係車両台数 ・車種別燃料種別走行量 ・車種別燃料消費原単位 ④廃棄物の発生 ・建設系廃棄物の種類別処分方法別発生量及び排出係数
		予測方法	・排出原単位を用いた排出量算定式に基づく推計
		予測場所	・事業予定地及びその周辺
		予測時期	・工事期間中
		供用時	鉄道施設 の供用
予測項目	・温室効果ガス発生量(二酸化炭素換算)		
予測条件	・踏切除却後の自動車交通量 ・車種別燃料種別走行量 ・車種別燃料消費原単位		
予測方法	・排出原単位を用いた排出量算定式に基づく推計		
予測場所	・踏切の除却により道路交通の円滑化が図られる幹線道路の 3地点(図 6-1-1 参照)		
予測時期	・供用時		

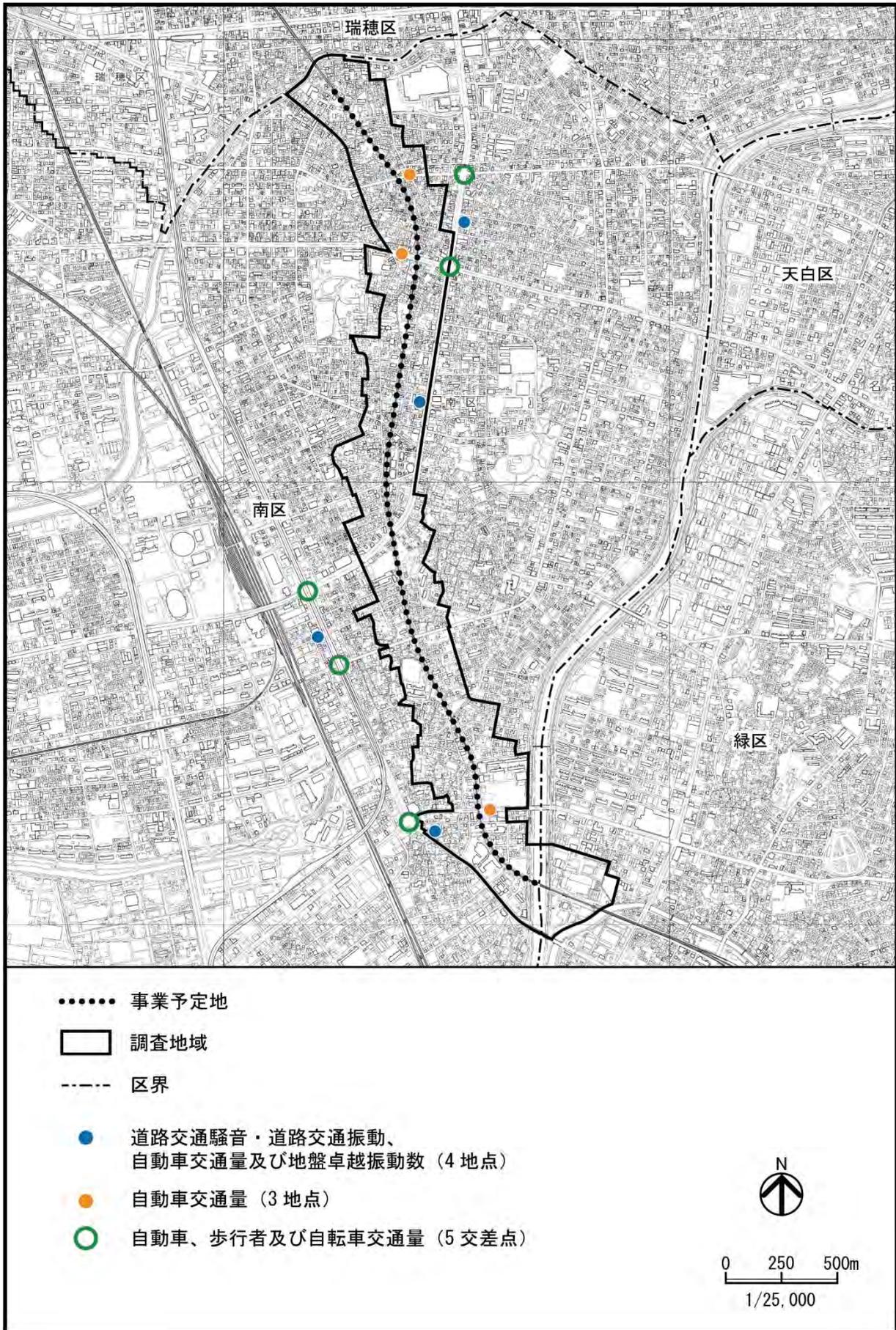


図 6-1-1 現地調査地点図(騒音、振動、自動車交通量等)

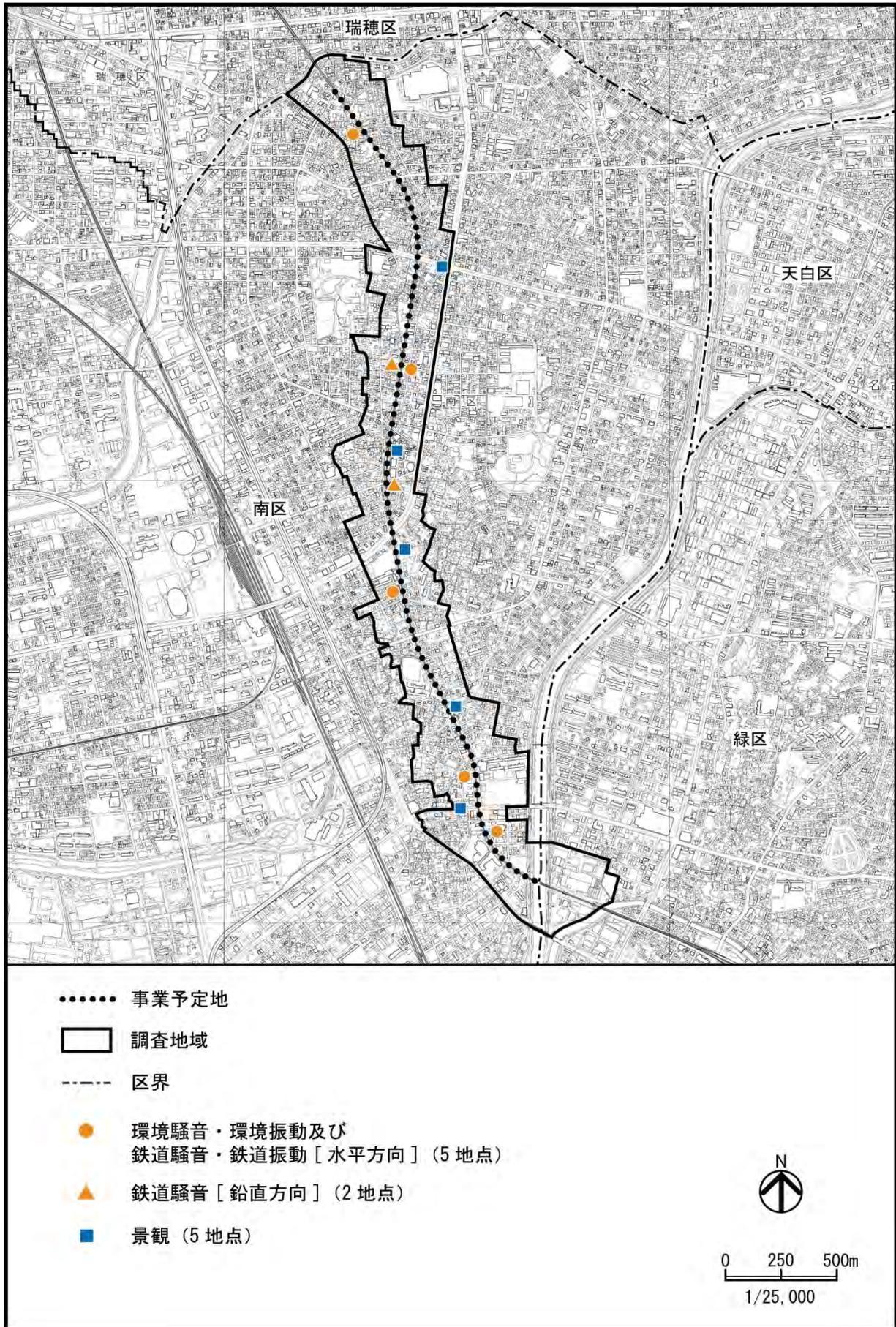


図 6-1-2 現地調査地点図(騒音、振動、景観)

6-2 環境の保全のための措置の検討

予測の結果、環境影響がないと判断される場合及び環境影響の程度が極めて小さいと判断される場合以外には、以下のことを目的として環境の保全のための措置を検討する。

- (1) 事業者の実行可能な範囲内で、環境影響をできる限り回避又は低減する。
- (2) 国、愛知県または名古屋市による基準又は目標の達成に努める。

6-3 評価

調査、予測及び 6-2 で行った環境の保全のための措置の検討結果を踏まえ、以下に示すことを明らかにして、環境保全の見地から適正な配慮を行う。

- (1) 事業の内容や地域の状況に応じ、検討した環境の保全のための措置について複数案を比較検討することや、より良い技術の導入を検討することなどにより、事業の実施による環境影響が事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減されているか否か、あるいは改善されているかについて評価する。

該当する環境要素：大気質、騒音、振動、日照障害、電波障害、安全性、廃棄物等、植物、動物、生態系、緑地、景観、人と自然との触れ合いの活動の場、文化財及び温室効果ガス等

- (2) 環境基準や目標値が示されている環境要素については、調査、予測結果との整合性について評価する。

該当する環境要素：大気質、騒音及び振動

- (3) (1)、(2)を踏まえ、環境要素ごとの予測、評価結果の概要を一覧表とし、他の環境要素に及ぼすおそれがある影響について検討するなど、総合的に評価する。